さらばミッシェル・ウィ ペブルビーチでラストランを飾る

全米女子オープンを最後に引退を表明していたミッシェル・ウィが、およそ20年の競技生活の幕を閉じた。

「目標は最終日最終組」と笑いながら抱負を語った彼女だったが、結果は予選落ち。第2ラウンド終了後に花束を手渡され、舞台を去った。

その2日後、同じグリーン上で優勝を決めたのは同じハワイ出身の後輩A・コプース。「14年にミッシェルが全米女子オープンに勝ったときのことは忘れられません。彼女の活躍に刺激と影響を受けてきました」とコプース。「若い王者の誕生は、いつだってうれしい。私たちの思いがつながることだから」とウィ。

なぜ引退を決めたのか？ その質問にこう答える。「本当はもっと長く現役を続けたかったです。特に娘が誕生してからは、この子に母親がプレーする姿を見せたいと思った。だけど、残念ながら現実世界では体が言うことをきかない。難しい決断をしなければならなかった」。

10代から活躍してきたウィは、たび重なる手首のケガに悩まされてきた。ケガのせいで思うようなプレーができないジレンマ、そして愛する家族のために第一線を退くことを決め、昨年5月以来「23年の全米女子オープンが最後」と公言してきた。当時彼女は疲労で「一日中ベッドの中にいないと娘を抱っこすることすらできない。マケナ（娘の名前）を落とし〝そうで怖かった」と打ち明けている。

ラストとなった全米女子オープンは、「とても感情的な1週間でした。ドリルをこなすのもヤーデージブックをチェックするのも、練習ラウンドをするのも最後。こみ上げてくるものがありました。でも、家族や多くの人に支えられてラストを迎えられたのはすごくクール」。

最後は笑顔でサヨウナラ！

写真：Getty Images

引退後は、「あらゆる女性の力になりたい。後輩たちには何かあったら遠慮せず相談してほしい」と言い、爽やかにコースを後にした。33歳の若すぎる引退。華やかな姿をファンは決して忘れない。

予選落ちしても8000ドル（約110万円）が支払われたという全米女子オープン。しかし〝うっかりミス〟から、これを手にすることができなかった選手がいる。

それはタイのN・ウォンタウィラップ。第1ラウンドで帯同キャディが大会で禁止されている距離測定器を複数回にわたって使用したことが原因だ。規則では1回目の違反は2罰打だが、2度目で失格。5ホール目で失格の処分が言い渡されることになった。

距離測定器は「ローカルルールによる使用禁止が採用できる」として、ジェネラルルールで使用が可能となっている。同大会ではこのルールが〝適用外〟となっており、従来のLPGAの試合では使用可能とされていたことから勘違いしたのだろう。

ちなみに6月のコーンフェリーツアーでも距離測定器の使用による失格者が出ている。ザック・ウイリアムスというマンデーから出場権を得た選手だ。PGAツアーやコーンフェリーツアーは距離測定器の使用を禁止しているが、予選会では使用が認められるケースもあることから、いつもの感覚で使用した？

違反の種類は違うが、国内女子ツアーでも。先日の「ミネベアミツミレディス」では吉田弓美子が「クラブをプレーから除外するための手続き（ゴルフ規則4・1c）」に違反し、失格となった。

選手はクラブを最大14本までコースに持ち込むことが可能だが、それより多いことに気付いた場合、次打の前にプレーから除外するクラブを明確に示す必要がある。10番からスタートした吉田は11番の2打目の前に「本数が多いように感じた」が、進行を考えプレーを続行。11番のプレーを終えた後に15本入っていることを確認し、直後に申告した。仮に気付いた時点で申告していたら4罰打にとどまったが、これを行わなかったため失格となった。

いずれもちょっとかわいそうな気がしないでもないが、ルールはルール。責任は選手自身にある。

距離測定器に本数オーバー。〝うっかりミス〟が招いた大失態

〈間違い探しの解答〉
（出題は94ページ）

次号 障害者アスリートのゴルフ追跡

「全米アダプテッドオープンレポート」は7月25日(火)発売です

統合発表後に公となったPGAツアーの〝LIV対策〟

LIVゴルフに関連するPGAツアーの資料を、フロリダ州の裁判所が〝誤って〟公にしてしまった。375ページにも及ぶ機密文書が明らかになったことが波紋を呼んでいる。

米複数メディアが伝えたところによれば、注目すべき点は3カ所。

1つ目はLIVゴルフ発足の約半年前となる21年6月。欧州ツアーのキース・ペリーCEOが、PGAツアーと提携をしているにもかかわらず、「かつてのように協力し、一緒にやっていけることを望んでいる」とサウジアラビアの公共投資基金にメッセージを送り、実際にその1カ月後にマルタで会合をした点。

2つ目は22年6月。PGAツアーがLIVに対抗するべく欧州ツアーを〝買収〟することで、より関係性を強化しようとしていたこと。PGAツアーは欧州ツアーが資金的に脆弱（ぜいじゃく）であるという調査を受け、IMG社が持つヨーロピアンツアーグループの株を買収した点だ。

そして3つ目は、昨年のトラベラーズ選手権で行われた選手会ミーティングで、T・ウッズが語る言葉の〝台本〟をPGAツアー側が事前に用意していたこと。

「ひどい状況だ。LIVゴルフはPGAツアーを乗っ取ろうとしている」などとタイガーに語らせようとしていたのだ。タイガー自身はこれを受け、「こんな書類は初めて見た。そもそも選手会のミーティングには参加していない」とSNSで反論している。

つまり実際には選手会でのタイガーの発言はなかったが、一連の出来事を見てきた一般ゴルファーたちのSNSを見る限り、PGAツアーが選手たちの発言をコントロールしていたのでは？ という疑念は払拭（ふっしょく）できていないようである。

僕は何も言っていません！

同裁判所ではLIVゴルフがPGAツアーを「独占禁止法違反」として訴訟を起こしていたが、両ツアーは現在、その訴訟を取り下げている。しかし今後、アメリカ議会やメディアによる開示請求などで、具体的な内容も明らかになっていくものと思われる。

名匠・上田治が、岐阜県で手がけた作品が〝隠れた宝石〟として注目を浴びている。

そのゴルフ場の名は長良川CC。1958年、長良川沿いの県営グラウンド内に9ホールのコースが生まれた。岐阜県第1号のコースで、同CCの前身である。

その後、より本格的なコースを目指して岐阜市に一番近い土地を求め、現在の長良雄総北裏山に7万坪を確保した。

清流長良川を眼下に岐阜城の金華山を南に眺める絶好の景観。設計を上田治に依頼。倶楽部創設の中心になったのは渡辺甚吉という人物で、岐阜一有力な資産家として知られた。英国留学を果たし、戦前は勅選貴族院議員、戦後は参議院議員を務めた。63年、9ホール2235ヤード・パー31で開場。次いで9ホールを増設し、73年、18ホール4220ヤード・パー62として現在に至っている。

上田によるレイアウトは、パー3が10ホール、パー4が8ホールというホール立てで、ブラインドがない。そのルーティングはどのホールからでも金華山を仰ぎ見ることができ、無理に造りこんだホールがない。

JGAゴルフミュージアム参与の武居振一氏は、「街の中心にあり、地元の名勝を借景にデザインされたというのは、地元の最有力倶楽部が核となった証拠。上田は、ひっそりとしながらも小粒でもピリリと辛い上質なコースを造りたかったのでしょう」。

同CCのすぐそばには同じ上田監修の岐阜関CCがある。同CCは難易度も高く距離も長いことから、同じ岐阜県に上田が関与した「一番長いコース」と「一番短いコース」が併存しているのだ。

2カ所の会員という人も多い。その1人、岐阜関CCコース委員会委員長の中原丈夫氏は、「競技ゴルフなどやった人でも、高齢になってくると岐阜関は手に余ると、多くの人は長良川のほうに流れてきています」。

こうして長良川CCは若年男女ゴルファーも訪れるようになり、隠れた人気コースとなっている。

団塊世代で再ブーム？ 岐阜県最古 上田治設計の長良川CC